

弁当携え高齢者訪問

総社で県立大2グループ協働

食生活、日常の悩み聞く

管理栄養士や社会福祉士を目指す県立大の学生グループが15日、総社市中心部で地域の



高齢者を支援する活動を行った。手作りの弁当を携えて自宅を訪問し、食生活や日常の悩みなどを聞いて回った。

参加したのは、市内の高齢者を対象に個人の好みや健康状態に応じた「カスタマイズ弁当」を1食500円で提供している「TAMAGO」と、高齢化率が高い同市山田地区で1人暮らしの高齢者の困り事を聞く活動をしている「はっぴーすたんど」の2グループ13人。

両グループが協働するのは今回が初めて。同市中央のまちづくり拠点「FLCB」でTAMAGOのメンバーが弁当を作り、それを「はっぴーすたんど」の2人と一緒に周辺の5世帯に届けて回った。

初めて注文した同市総社の京野智榮子さん(90)は、プリのみぞれ煮や煮しめが入った弁当を見て「店屋物ばかりでは野菜が不足しがちになるので助かる。これからも年寄りを喜ばせて」と目を細め、何度も手を合わせた。学生たちは「肉と魚はどっちが好き?」「普段困っていることはありますか?」などと30分程度話を聞いた。

以前からお互いの活動に興味があったという両グループ。京野さん方を訪れた「はっぴーすたんど」の保健福祉学部3年森中涼花さん(21)は「食や健康を切り口にすることで、気持ちを通わせやすかった気がする」と相乗効果を実感していた。

(久万真毅)